

第7回 土木科学シンポジウム開催案内

テーマ「100年後の人と河川の姿を考える」

■ 実行委員会

安田 浩保 新潟大 災害研
河川工学

早坂 圭司 新潟大 理学部
素粒子実験物理学,ビッグデータ

村松 正吾 新潟大 工学部
信号処理

■ 主催・協力・後援

・主催

ARCEプロジェクト

・協力

新潟大 BDA研究センター
新潟大 URA
科研費 基盤研究(A) 24H00365
マルチスケールミュオンイメージング

・後援

水ラボコンソーシアム
和合館工学舎

■ 問合せ先

安田 浩保
hiro@gs.niigata-u.ac.jp
025-262-7053



我が国の土木工学の研究生産力は先進国中で最低水準。この問題の原因は土木分野の博士取得者数が少ないことである。現状を放置すれば、計画系業務や教育機関の維持が困難となる。

昨今の水害の頻発と規模の増大に備え、流域治水の実現が急がれています。この流れは世界でも同様です。しかし、世界の国々の中には100年後の気候変動の社会変容を見据え、**治水と環境の両立**を目指した川づくりという難題に挑戦している国もあります。

本年は、100年後の人と川の理想的な姿を想像し、これを実現するための技術開発とその基盤となる人材育成をテーマとすることにしました。そこで、まず、特別講演において、国交省の**最新技術やその社会実装**についてと、**数理が切り拓く「制御」**の未来についてご講演を頂きます。2つ目の講演で「制御」を話題としたのは、かつて困難だった実河川の「実測」が徐々に可能となり、河川の制御が次の技術開発の方向性となるためです。また、この1年間の異分野融合型の研究により、少量の河川の実測データを教師データとする深層学習によって従来は不可能だった**河川の流体内部の物理量の推定**ができ、また、**ミュオンによる堤体内部の状態**の把握がどれほどできるかが分かってきました。これらの研究成果は、研究成果を口頭とポスターで共有します。さらに、建設関連の人材関係については、我が国は他の先進国と比べ、高い研究力を備えた人材が不足し、施工系の人材不足の続き、**計画系業務**を担う人材の育成と確保が困難な時代に突入しました。この解決に向け、建設関連の**産官学の各者が何を始めるべきか**を考える総合討論を企画しました。

日時・会場

2024年11月8日（金）13:00-18:00（12:30から受付開始）

朱鷺メッセ 4階 国際会議場

新潟市中央区万代島6番1号 TEL.025-246-8400

0. ポスター自由閲覧（10時30分から順次受付）

1. シンポジウム（13時00分から18時00分、当日参加可、無料）

第一部 開会挨拶・基調講演（13時00分～13時45分、45分）

「100年後の人と河川を考える」安田 浩保（新潟大学、水ラボ共同代表）

第二部 招待講演（13時45分～14時40分、55分）

講演1：「この3年、新技術の実装、どこまでやれたか」国土交通省 海岸室長 室永 武司

講演2：「ミュオンイメージングの次なる挑戦（仮題）」名古屋大学 森島邦博

講演ごとに5分ほどの質疑応答を予定

第三部 ポスターセッション（14時45分～16時05分、80分、二部制）

新潟大・名古屋大・広島大の学生および実務技術者の研究紹介

第四部 総合討論（16時10分～17時40分、90分）

議題1：100年後の河川と人の理想とは

議題2：現状の制約

議題3：産官学からの要望と自らの課題設定

司会：安田 浩保（新潟大学）

登壇者

企業：美寺 寿人（東邦産業）、味方 圭哉（JICE）

行政：室永 武司（国交省）、酒井 公生（新潟県土木部）、大丸 歩（国交省）

大学：早坂 圭司（新潟大学）、塩谷 翼（新潟大学 修士2年）

優秀ポスター賞発表及び閉会挨拶：小野 貴史（小野組、水ラボ共同代表）

2. 懇親会（18時30分から2時間程度、要事前申込、会費制）

開催会場：日航ホテル・30階 鳳凰（詳しくは別途ご案内）



事前アンケート